

音楽芸能スタッフ科 ローディーコース
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	一般教養Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
講義	舞台知識Ⅱ	68	2	4
講義	P C 知識Ⅱ	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	68	2	4
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
実習	イクイップメントⅡ	68	2	2
演習	スタッフワーク基礎Ⅱ	68	2	4
演習	スタッフワーク応用Ⅱ	68	2	4
実習	P A 基礎Ⅱ	68	2	2
実習	P A 応用Ⅱ	68	2	2
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。 ②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。 ③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</p>					

対策	
【前期】 1～3回目	・就職面接対策 ・筆記対策
【前期】 4～7回目	・マナーの基本(第一印象、あいさつ、身だしなみ、態度、表情、姿勢)復習 ・敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、クッション言葉、間違いやすい敬語)復習
【前期】 8～10回目	・コミュニケーション(聞き方・話し方、接客の言葉遣い、お客さま心理の理解)
【前期】 11～13回目	・ビジネスマナー①(ビジネスマナーの意義、来客対応、訪問のマナー、電話対応)
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。接遇の基本、言葉遣いなどに関わる知識や技能を問う。
【後期】 18～20回目	・ビジネスマナー②(ビジネス文書、ビジネスメール、指示の受け方・報告のしかた)
【後期】 21～24回目	・日本のしきたり①(冠婚葬祭のマナー、年中行事、贈り物のマナー)
【後期】 25～27回目	・日本のしきたり②(食事のマナー「和食・洋食・中華」、お酒のマナー)
【後期】 28～30回目	・社会人としての心構え(企業人としての必要要素、職場のルールとマナー、環境設備、ストレス対策)
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。オフィスワーク、日本のしきたりなどに関わる知識や技能を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはこれから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要	主にポピュラー音楽で使用されるアコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、ドラム、ピアノやキーボードなどの楽器の成り立ちや技術の発展について学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの楽器における基本的構造や音が出る仕組みについて理解し、正しく取り扱えるようになる。 日々進化を遂げる電子楽器やコンピューター技術について理解し、正しく取り扱えるようになる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	授業概要の説明。世界の様々な楽器を紹介。
【前期】 4～7回目	アコースティックギター、フィドルやマンドリンなどアコースティック弦楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【前期】 8～10回目	エレクトリックギターやベースギターなど電気弦楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【前期】 11～13回目	ギターアンプ、アンプシミュレーターや各種エフェクターなどの成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容から抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身についているかを問う。
【後期】 18～20回目	パーカッションやドラムの成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【後期】 21～24回目	キーボードやDJなど電子楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【後期】 25～27回目	管楽器などオーケストラで使用される楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【後期】 28～30回目	DTMをはじめヴォーカロイドやAIによるコンピューター技術の登場と今後の展望について。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身についているかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	何百年以上も姿形を変えない楽器もあれば、日々進化を遂げていく楽器もあります。楽器技術の歴史を学びローディーとしての知識を深めましょう。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	舞台知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからパシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①芸能の発生から芝居小屋の広がり、近代の公会堂、劇場、ホールへと歴史的に変化していった、日本の劇場、ホールについての学習する。</p> <p>②世界の劇場建築の変遷について、ギリシャからローマ時代、オペラ、クラシック音楽などの上演に適した専門劇場の形態を学習する。</p>					
到達目標					
<p>・卒業後、劇場等演出空間での創造性溢れる自由な表現活動に携わるスタッフに求められるのは、高度な創造と制作であり、さらには円滑で、より安全な公演実施には、音響、照明などの分野を超えた共通認識が必要とされ、公演に携わる者のコミュニケーションのために、必要不可欠な知識を習得が求められる。制作スタッフは、専門教科内で身につける知識とは別に、劇場が歴史的に、また洋の東西を超えて、文化創成、文化発信、文化体感の空間であることを認識することで、単なる技術者にとどまることなく、文化の一翼を担う、インテリジェンスを身につけた存在を到達目標とする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	●社会の中での芸能とホールの存在意義。
【前期】 4～7回目	●日本の公立劇場とホール。
【前期】 8～10回目	●欧州のホールの歴史、構造と文化的背景。
【前期】 11～13回目	●ホール、劇場の性能と機能。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	●文化芸術政策と劇場ホール。
【後期】 21～24回目	●実演芸術の制作。
【後期】 25～27回目	●劇場・音楽堂 その設備と運用の実際。
【後期】 28～30回目	●総括。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	卒業後の進路であるイベント制作会社、音響会社、照明会社、ローディ会社、プロダクション等の現場に臨むに当たり、これからエンターテインメント就労する中では、習得する機会のない基礎的な舞台全般知識の習得を目指します。
備考	舞台技術の共通基礎

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなせることが必須項目である。この講義では、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と応用的な使いかたを学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。</p> <p>・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどである。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Excelレイアウトの応用。(Excel方眼紙、枠線の練習)
【前期】 4～7回目	Excel関数の紹介。(SUM, MAX, MIN, AVERAGE, IF, IFERROR)
【前期】 8～10回目	Excel関数の紹介(VLOOKUP)、マクロの基本、Wordの復習。
【前期】 11～13回目	Wordのレイアウト要素確認。(用紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【前期】 14～17回目	■前期試験: Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 18～20回目	Wordのレイアウト要素確認。(表、画像の埋め込み、紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【後期】 21～24回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方①、ストーリー作成①、サンプルプレゼンテーション①(発表)
【後期】 25～27回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方②、ストーリー作成②、サンプルプレゼンテーション②(発表)
【後期】 28～30回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について復習。
【後期】 31～34回目	■後期試験: 実技試験のみ(Word/Excel/PowerPoint) 用途に応じて、これらOfficeソフトウェアを適切に選択し、学んだ技術を駆使しつつ、創造力をいかして課題を解決する文書ファイルが作成できるかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないパソコンによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ローディー知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして参加。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①「ローディー」という仕事の成り立ち、歴史や現状など根本的なところから今後求められるローディーの技術や知識について学んでいく。</p> <p>②現場で頻出する専門用語をはじめ、舞台の構造、機材運搬時の鉄則や音響に関する事などをより深く、ローディーとして必要な専門知識を身につける。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ローディーの仕事内容や、ステージ・舞台の構造を理解する。資料の作成ができるようになる。 ミュージシャンがローディーに望む事を事前に察知し、先回り対応ができるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ローディーの仕事とは。
【前期】 4～7回目	楽器の種類や、製造メーカーについて。
【前期】 8～10回目	ステージ・舞台の構造や名称、専門用語について。
【前期】 11～13回目	ステージ・舞台等で使われる単位、尺貫法等について。
【前期】 14～17回目	■前期試験：楽器の種類、メーカーについて筆記試験で知識を問う。
【後期】 18～20回目	資料の読み方、書き方について。
【後期】 21～24回目	各種ケーブル、電源等について。
【後期】 25～27回目	小規模な音響機材について理解を深める。キーボードやドラム周りを中心にモニターシステム等を構築する。
【後期】 28～30回目	1年間のまとめ。
【後期】 31～34回目	■後期試験：セット図、機材リストが正確に作成できるかどうか筆記試験で問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「専門用語/尺貫法/資料作成」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	ローディーはミュージシャンに一番近いところで仕事をしていると言って良いでしょう。ミュージシャンをサポートし、より良い演奏環境を作り出し、最高の演奏を引き出す、やりがいのある仕事だと思います。
使用教科書	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ローディー、マニピュレーターとして全国ツアーに同行し、福岡を拠点に楽器や音響機材のメンテナンス/管理に従事。SunsetLive、NumberShot、BARIYOKA ROCK、阿蘇ROCK、SkyJamboreeなどの音楽フェスや放送局の現地楽器クルー業務を担当。上記の経験を活かし楽器知識に関する講義を行う。				
授業概要	コンサートなどで使用される様々な楽器の歴史、構造、特徴、音色など、映像も交えて幅広い知識を学び、専門用語の理解を深める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な楽器についてその仕組み等を学び、幅広い知識を身につける。 ・1年次に得た楽器の知識から更に発展・応用した内容をみにつける。 ・楽器用語や専門知識を使い業界人として会話ができ、理解することにより、より良い音楽環境を整えるようにする。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	楽器の種類や分類法、音楽のジャンルによる編成等を学ぶ。
【前期】 4～7回目	打楽器/ドラムセットの構造の発展的理解・知識深堀。
【前期】 8～10回目	弦楽器/ギターの種類や構造、アンプ及びエフェクターの発展的理解・知識深堀。
【前期】 11～13回目	弦楽器/ベースの種類や構造、アンプ及びエフェクターの発展的理解・知識深堀。
【前期】 14～17回目	前期のまとめ ■前期試験:各楽器の構造や各部名称等について、筆記試験で知識を問う。
【後期】 18～20回目	鍵盤楽器/アナログシンセサイザーの構造の発展的理解・知識深堀。
【後期】 21～24回目	鍵盤楽器/デジタルシンセサイザーの構造の発展的理解・知識深堀。
【後期】 25～27回目	管楽器/木管楽器・金管楽器の構造の発展的理解・知識深堀。
【後期】 28～30回目	民族楽器/打楽器の発展的理解・知識深堀。
【後期】 31～34回目	年度のまとめ ■後期試験:前期と合わせて楽器の歴史や仕組み等について実技及び筆記試験で知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽器の分類/それぞれの楽器の主なメーカーと種類/楽器の各部名称とセッティング」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、楽器全般を知ることとはとても重要なことのひとつです。授業を通してより多くの楽器について学びましょう。また新しい音楽と共に、日々進化を続け、新製品が開発される楽器の世界です。常に新しい情報を入手する姿勢も大切です。
使用教科書	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リペア/メンテナンスⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ローディー、マニピュレーターとして全国ツアーに同行し、福岡を拠点に楽器や音響機材のメンテナンス/管理に従事。SunsetLive、NumberShot、BARIYOKA ROCK、阿蘇ROCK、SkyJamboreeなどの音楽フェスや放送局の現地楽器クルー業務を担当。上記の経験を活かしリペア・メンテナンスを行う。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンダ作業、電動工具など正しい取扱方法を学び、シールド作成やリペアに繋げる。 ・チューニングやピッチについて学び、弦楽器、打楽器のチューニングの基礎を身につける。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器知識で学んだことをもとに実際に楽器に触れ、構造を知り、チューニングや、ドラムヘッド交換、弦交換、調整が出来る。 ・それぞれの楽器に触れ、リペアやメンテナンスの技術を習得することはもちろん、「仕事の道具」、「表現する道具」としての楽器としてのみではなく、「楽器を大切に扱う」「楽器を好きになる」という基本中の基本の心を育てる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	工具の正しい取扱方法。同一種打楽器の音色の違いを聞く。
【前期】 4～7回目	ドラムの構造について/各部消耗品の交換/チューニング/メンテナンス。
【前期】 8～10回目	ギター・ベースの構造について/各部消耗品の交換/チューニング/メンテナンス/アンプについて。
【前期】 11～13回目	エフェクター用パッチケーブル作り・半田付け実習。
【前期】 14～17回目	■前期試験:ドラムのヘッド交換、およびチューニングの実技試験を行い技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	ノイズの種類とその原因・対策について/楽器電源について。
【後期】 21～24回目	エフェクターの修理、作成
【後期】 25～27回目	キーボード、アンプ類の修理、調整の実施
【後期】 28～30回目	キーボード、アンプ類の修理、調整の実施
【後期】 31～34回目	年度のまとめ ■後期試験:前期の内容と合わせて、ギター弦交換・チューニングなど実技試験を行い技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ドラムヘッド交換・チューニング等/ギター弦交換・チューニング等/半田付け技術の習得」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	ローディーに必要な楽器知識、修理、メンテ作業を身につけ、今後の仕事や自身のスキルアップに活用しましょう。
備考	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにも参加。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 4～7回目	楽器などの立ち位置、ギター、アコギの弦替え、チューニング、PA、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	ドラムヘッドの張り替え、ベースの弦替えチューニング、4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方など。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し、メモリーシートの作成。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2セットのドラムの転換の仕方、バミリやチューニング、キーボードのセッティングと音だし。PAモニタージェスチャー。
【後期】 21～24回目	楽園祭・ライブに向けての準備・実習。転換図作成、見方、転換の仕方、楽器調整、舞台進行など。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。図面を見てステージセッティング、バンド台を作成。LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ
【後期】 28～30回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
【後期】 31～34回目	FINALWEEKに向けての各セクションとの打合せや準備。一年間の総仕上げ
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにも参加。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。 ※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施</p>					
到達目標					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 4～7回目	楽器などの立ち位置、ギター、アコギの弦替え、チューニング、PA、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	ドラムヘッドの張り替え、ベースの弦替えチューニング、4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方など。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し、メモリーシートの作成。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2セットのドラムの転換の仕方、バミリやチューニング、キーボードのセッティングと音だし。PAモニタージェスチャー。
【後期】 21～24回目	楽園祭・ライブに向けての準備・実習。転換図作成、見方、転換の仕方、楽器調整、舞台進行など。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。図面を見てステージセッティング、バンド台を作成。LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ
【後期】 28～30回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
【後期】 31～34回目	FINALWEEKに向けての各セクションとの打合せや準備。一年間の総仕上げ
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々合ったセッティングを実践する。 ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo SD7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解する。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。</p>					
到達目標					
<p>・デジタルミキサー(DiGiCo SD7・YAMAHA CL5)を使用するのハウスイオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。</p> <p>・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。</p> <p>・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをSD7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。</p> <p>・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用するのセットアップ・ハウチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	SD7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	SD7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console SD7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	SD7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験:FOH Console SD7・Monitor Console CL5を使用するのセットアップ・ハウチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもありませんが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用するのハウスイオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々合ったセッティングを実践する。</p> <p>②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo SD7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解する。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施</p>					
到達目標					
<p>・デジタルミキサー(DiGiCo SD7・YAMAHA CL5)を使用する際のハウスイオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。</p> <p>・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。</p> <p>・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをSD7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。</p> <p>・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験: FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用する際のセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	SD7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	SD7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console SD7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	SD7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験: FOH Console SD7・Monitor Console CL5を使用する際のセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さも増え難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用する際のハウスイオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	著作物の定義や著作権の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。				
到達目標	音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権の権利の内容を理解する 著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成 & 提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リカーブラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。